

茨城県の庭園

<https://oniwa.garden/category/関東地方の庭園/茨城県の庭園/>

この資料は、公開用としてではなく、自己使用用として、「おにわさん」を基に作成しました。ご参考用として順次改訂して参る所存です。

茨城県コード 21

- 01 水戸市の庭園 (3件)
- 02 笠間市の庭園 (5件)
- 03 古河市・筑西市の庭園 (2件)

水戸偕楽園 笠間稲荷神社庭園 鷹見泉石記念館庭園 西山御殿跡庭園 岡倉天心六角堂

01 水戸市の庭園 (3件)

偕楽園 (常磐公園) 日本三名園のひとつ 国宝特別名所 常磐線・水戸

<https://oniwa.garden/kairakuen-garden-%e5%81%95%e6%a5%bd%e5%9c%92%ef%bc%88%e5%b8%b8%e7%a3%90%e5%85%ac%e5%9c%92%ef%bc%89/>

<http://www.koen.pref.ibaraki.jp/park/kairakuen01.html>

日本三名園の一つ。江戸時代後期、水戸藩主・徳川斉昭公により構想され、近代には本多静六が改修を手掛けた庭園

「偕楽園」(かいらくえん)は日本三名園の一つで、庭の国宝“特別名勝”にも選ばれています。江戸時代後期、水戸藩主・徳川斉昭公によって構想され造られた公園で、後に近代の造園家・本多静六により都市公園として拡張。

好文亭から見渡す庭園と、庭園の一部として取り入れられている千波湖の風景が絶景。梅の名所でもあり、現在の偕楽園はとても広く低地部にも池泉回遊式庭園が整備されています。

近隣

<http://romitou.hateblo.jp/entry/%E6%B0%B4%E6%88%B8%E6%97%85%E8%A1%8C%E3%80%82%E5%81%95%E6%A5%BD%E5%9C%92%EF%BC%88%E5%B8%B8%E7%A3>

園があります。

2019年9月に2年半ぶりに訪れました。その時はあまり見頃の花はなかったけれど（百日紅ぐらい）、初めて訪れた11月にはモミジやドウダンツツジが真っ赤に染まった…紅葉が美しい庭園でもあります。

2020年3月にこの保和苑は水戸市の“地域文化財”の記念物・名勝に指定されました。略すと“水戸市指定名勝”になってしまうけれど、これは一般的な“指定文化財”ではなくて。学術目線の？指定文化財になる一歩手前で、それらにならずとも「地域の人々がはぐくんできた文化財」みたいなものを指定していく水戸市独自の制度。京都府暫定登録文化財に近いものかな。

保和苑は隣接する「大悲山 保和院 桂岸寺」（だいひざん・ほわいん・けいがんじ）の庭園として作庭されたもので、水戸藩二代目藩主・徳川光圀に好まれ元禄年代に“保和園”を名付けたのがはじまりとされます。

なお桂岸寺の創建は1682年（天和2年）。元禄時代はその後の年代、水戸光圀が亡くなったのも元禄の終わりの頃なので、正に水戸黄門でイメージする晩年の光圀公が訪れていたんだろう。

昭和初期に地元の水戸市民によって拡張整備され、名前も現在の“保和苑”に改称されました。現在庭園を見下ろすことができる築山はそれ以降に整備されたもの。また桂岸寺より市に寄贈され現在は都市公園として開かれており、市民により維持管理されています。その一環で6,000株も植えられたアジサイが6月～7月には咲き誇り『水戸のあじさいまつり』が開催されます。いつかその時期にも訪れてみたいなー！

あと今回訪れて知った新たな試みは、この保和苑～水戸八幡宮（国指定重要文化財）～『祇園寺』が水戸の“ロマンチックゾーン”と称され、お散歩ゾーンとして案内マップなどが設置されていた。偕楽園や水戸駅と地味に距離が離れているから普通の観光客はあまり足を伸ばさなかった場所かもしれないけど、これを機に散策してみるのも良いかも。

アクセス

JR常磐線 水戸駅
より約3.5km（水戸
駅南口にレンタサイ
クルあり）

水戸駅より路線バ
ス「保和苑入口」下
車 徒歩3分

東京から高速バス
で向かう場合：「大
工町」バス停より徒歩約15分



祇園寺庭園 光圀ゆかりの寺院の枯山水庭園 常磐線・水戸

<https://oniwa.garden/gionji-temple-%e7%a5%87%e5%9c%92%e5%af%ba%e5%ba%ad%e5%9c%92/>

<http://www.mitokoumon.com/kankou/%E7%A5%87%E5%9C%92%E5%AF%BA-2.html>

水戸黄門こと徳川光圀ゆかりの寺院に現代の作庭家・枅野俊明と京都・植藤造園が作庭した3つの枯山水庭園

【拝観は要事前連絡】

「壽昌山 祇園寺」（じゅしょうざん ぎおんじ）は水戸黄門こと水戸藩二代目藩主・徳川光圀が開基として江戸時代初期に開かれた寺院。平成年代に現代の作庭家・枅野俊明さんにより作庭された枯山水庭園があります。拝観には要事前連絡（法要などがある際は拝観不可）。

同じく水戸光圀公ゆかりの庭園である『保和苑』のほど近くで、国指定重要文化財の『水戸八幡宮』もあるこの一帯は“水戸のロマンチック・ゾーン”の名で散策コースになっています。

2019年9月初旬に初めて訪れました！笠間の『春風萬里荘』や石岡の『大覚寺庭園』と併せて、関東を離れる場所に訪れたかった場所。あと同日まで水戸芸術館で開催されていた大竹伸朗さんの個展『ビル景 1978－2019』も。

祇園寺の開山は1677年に来日した明の禅僧・東皐心越禅師。先にこの地にあった「天徳寺」の住職を務められたそうで、祇園寺の名になったのはその後の1712年。当時は30以上の末寺を持つという大寺院だったそうで、現在はそこまでではないにせよ、広い境内であるのは違いない。

ただし幕末に火災により伽藍の多くを焼失し、現在も江戸時代から残るのは「金剛尊天堂」のみ。それ以後一時は荒廃したものの、昭和45年に本堂を再建。山門・鐘楼も平成年代に再建…と徐々に復興。明治～大正期の画家・中村彝、文人・山村暮鳥らの墓所も残ります。

その中で、枅野俊明さんと京都・植藤造園さんにより3つの枯山水庭園が作庭されました。枅野俊明さんがこのお庭を手掛けたのはご住職が修行時代の同期だったからだそう。残念ながら今回は龍門瀑をテーマに造られた『紫雲台庭園“龍門庭”』（1999年）は観ることがかなわなかったのですが――客殿前の“聴楓庭”と中庭“水到渠成の庭”（2004年）を観させていただきました。

『聴楓庭』は中央のクロマツを主木としつつ、その名の通りお庭の左右と頭上にモミジが配されていて――この時は青モミジでしたがきっと秋には美しかったんだろうなあ。“禅”の世界の枯山水の中にも、昔の枯山水にはあまり入ってこない様々な樹木が植えられているのが自然風でとても良くて。

一方で近年の暑い夏を思うと、苔は梅雨時期ぐらいが一番根付きがいいんだろうか…（この日も35度近い残暑）。来年もおそらく水戸へ行く用事があるので、その時にまた訪れたい！

アクセス

JR常磐線 水戸駅より約3km（駅周辺にレンタサイクルあり）

水戸駅より路線バス「茨城高校入口」バス停下車 徒歩3分

310-0065 茨城県水戸市八幡町 1 1 - 6 9



02 笠間市の庭園 (5件)

笠間稲荷神社庭園 関東を代表する“日本三大稲荷” 水戸線笠間

<https://oniwa.garden/kasama-inari-shrine-%e7%ac%a0%e9%96%93%e7%a8%b2%e8%8d%b7%e7%a5%9e%e7%a4%be/>

<http://www.kasama.or.jp/>

「関東を代表する“日本三大稲荷”の神社には、国指定重要文化財の本殿や伊東忠太建築、岩城造園による庭園も」((<https://oniwa.garden/kasama-inari-shrine-笠間稲荷神社/> 参照 2022年8月12日))

「笠間稲荷神社」(かさいなりじんじゃ)は京都『伏見稲荷大社』や愛知『豊川稲荷』などと並び“日本三大稲荷”に挙げられ、年間300万人の参拝客が訪れる関東を代表するお稲荷さん。江戸時代末期の1860年頃に再建された御本殿が国指定重要文化財となっています。2019年夏に約10年ぶりに参拝しました！

その歴史は社伝では飛鳥時代の651年。それ以後当地で厚く信仰され、江戸時代に入ると歴代の笠間藩主をつとめた松平家(後に丹波篠山藩主)、戸田家(後に松本城主)、浅野家(『忠臣蔵』で有名なのちの赤穂藩主)などが各地に転封した後もその先に分霊をまつて稲荷神社を建立。赤穂の大石内蔵助の旧宅跡にある『大石神社』もその一つ。

江戸時代中期に笠間城主となった井上正賢や牧野貞通によって境内が現在のように整えられていきました。

国重文の本殿は『笠間稲荷美術館』へ向かう道の途中に横からしか見られませんが、当時の笠間で名匠と言われた後藤縫之助の作「三頭八方睨みの龍」「牡丹唐獅子」、弥勒寺音八と諸貫万五郎の作「蘭亭曲水の図」など精巧な彫刻がうかがえます。なお朱色の拝殿は昭和35年の建築。

なお今回久々に行った目的の一つとして、岩城亘太郎の創業した岩城造園によって1995年(平成7年)に作庭された“参集殿”の庭園というのがあったのですが…そちらは非公開。参集殿のある「稲光閣」は街のイベント等でも用いられています。

ご祈祷の際など拝殿から稲光閣へ向かう途中に冒頭の滝石組が見られる池泉庭園があります。岩城造園、笠間稲荷で“随處楽園庭園”というのを手掛けられているようなのだけど参集殿の庭園なのか、こちらなのか…気になる。

そして境内奥には奈良・正倉院を模して建築され、1981年に開館した『笠間稲荷美術館』も。その一角にも池泉式庭園がある一帯なのですが、更に伊東忠太により設計された“瑞鳳

ibaraki-pref21-teien.doc

けたそう。その中にはジョサイア・コンドルの手掛けた国重文の『ニコライ堂』も含まれます。アイコン画というジャンル、初めて知った…。

そんな山下りんの遺品や資料などが展示されているのがこの白凜居。月に数日の公開とは知らず、この日も残念がら開館日ではなかったのですが一建物の袖には大きな切石橋の枯山水庭園があります。

ここは生家からすぐそばに、元は山下りんの弟の自宅があった場所。建物や洋風の四阿は現代のものかと思いますが、枯山水の石材や周囲の高木からは歴史を感じさせる場所です。笠間の美術館巡りとあわせてどうぞ。

アクセス

JR水戸線 笠間駅より徒歩15分強（※駅前にレンタサイクルあり）

〒309-1611 茨城県笠間市笠間1510



西念寺（稲田御坊） 親鸞ゆかりの浄土真宗発祥地にある庭園 水戸線稲田

<https://oniwa.garden/inadagobo-sainenji-temple-%e7%a8%b2%e7%94%b0%e5%be%a1%e5%9d%8a/>

<https://www.inadagobo.org/>

http://www.kasama-kankou.jp/upsys_pro/index.php?mode=detail&code=471

<https://www.ibarakiguide.jp/db-kanko/id-0800000002874.html>

親鸞聖人が約20年暮らした“浄土真宗発祥の地”。鎌倉・室町期より残る茅葺の山門や、本堂横の庭園も見所

「稲田山 西念寺」（さいねんじ）は浄土真宗の宗祖・親鸞聖人が東国での布教の際に約20年暮らした“稲田の草庵”をルーツとする寺院で、浄土真宗の別格本山。浄土真宗発祥の地とも言われます。通称“稲田御坊”、“稲田禅坊”。

2019年の晩夏に9年ぶりに訪れた茨城県笠間市。目的は『春風萬里莊』とお隣・石岡市の『大覚寺庭園』。庭園目的で訪れた大覚寺が“親鸞聖人法難の遺跡”と呼ばれた親鸞ゆかりの寺院でしたが、拠点だったのはこの稲田御坊。

…この旅では事前に認識していたわけではないのだけど、街道沿いの大きな寺院だったので立ち寄ってみました。なお門前にある『林照寺』も鎌倉時代に開かれた浄土真宗の単立寺院。茅葺きの本堂が良い感じ。

親鸞は晩年には京に戻りましたが、妻・恵信尼はこの稲田草庵に残り数十年過ごしたという説も。寺院となったのは1304年頃。西念寺という寺名は執権・北条家に仕えた宇都宮泰綱による命名。

茅葺きの山門は鎌倉～室町時代の建立とされますが、立派な本堂は明治期の焼失により平成年代（1995年）に再建されたもの。親鸞が草庵の庭に種を植えたという樹齢800年の“お葉付きイチョウ”は茨城県指定天然記念物。また所蔵している唐本一切経が茨城県指定有形文化財となっています。

本堂のすぐ横に斜面に石組みを配した池泉鑑賞式庭園があります。本堂の再建時に作庭されたものかな。自由に拝観できて、大きな庭園ではないけれど、その滝石組や舟石に目を引かれる。

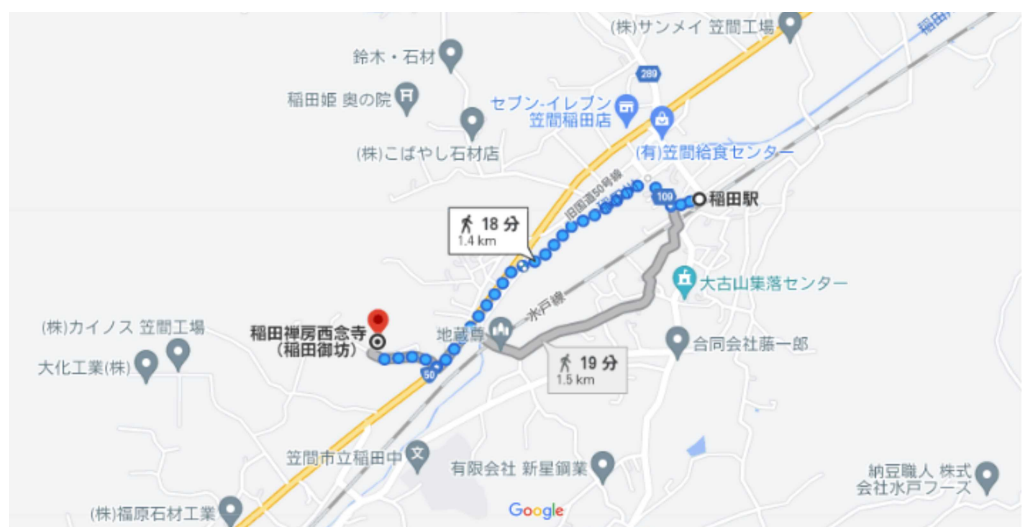
京都に行かず、関東でも楽しめる親鸞ゆかりのスポット。大覚寺とあわせてどうぞ！

アクセス

JR水戸線 稲田駅より徒歩20分弱

JR笠間駅より約5km（※駅にレンタサイクルあり）

〒309-1635 茨城県笠間市稲田560



大覚寺庭園 “親鸞聖人法難の遺跡”に残る池泉回遊式庭園 水戸線福原

<https://oniwa.garden/daikakuji-temple-ishioka-%e5%a4%a7%e8%a6%9a%e5%af%ba%e5%ba%ad%e5%9c%92/>

<http://www.city.ishioka.lg.jp/page/page001424.html>

<http://www.ishioka-kankou.com/page/page000060.html>

<https://www.ibarakiguide.jp/db-kanko/id-0800000002877.html>

浄土真宗宗祖・親鸞も訪れた“親鸞聖人法難の遺跡”に残る、池泉回遊式庭園“裏見無しの庭”。石岡市指定名勝

「板敷山 大覚寺」（だいかくじ）は浄土真宗の宗祖・親鸞聖人も訪れ“親鸞聖人法難の遺跡”として伝わる寺院。京都の『天龍寺庭園』、『桂離宮』を模して江戸時代に作庭されたと伝わる池泉回遊式庭園“裏見無しの庭”は石岡市指定名勝となっています。

個人的に関東を離れる前に無性に行きたくなった庭園の一つ。「素晴らしい」と聞いていたというより、茨城県の市町村レベルでの文化財庭園ってあまり無くって…数少ないそれがここだったという理由。

アクセスがまた微妙なのが行きたい気持ちをより掻き立てて…常磐線の羽鳥駅から路線バスが出ているのですが、約30分間乗った先の路線の終点で石岡市の最北端（桜川市との境）。最寄駅は水戸線の駅なんだけど距離にして6kmあるので歩いて行くのは不可能。どちらでも行きづらい…。

結果、笠間でレンタサイクルして片道14km走ってこのお寺に。一体なぜ市の名勝にこんなに必死になってるのかと自転車を漕ぎながら思ったりしつつ…。

大覚寺の創建は鎌倉時代。後鳥羽上皇の第3皇子・正懷親王は比叡山で出家し、周観大覚と名乗り東国を行脚。その折にこの板敷山の南麓に草庵を結び「大覚 阿弥陀堂」と名付けたのがお寺のはじまりとされます。

その頃親鸞も東国に布教に訪れ、周観大覚は大覚寺から程近く（…って言っても近くないけど笠間との中間点ぐらいにある）『稲田御坊』で親鸞聖人と出会い、“善性房鸞英”という名で親鸞の法弟となりました。

そんな縁から親鸞自身も板敷山には訪れました。この地が“親鸞聖人法難の遺跡”と言われるのは当地の山伏・弁円がアンチ親鸞で彼の命を狙ったため。結果的には弁円が親鸞に帰依することになり、更にはその後大覚寺の建立にも携わったそう。茨城県指定有形文化財の「弥陀名号」は法然上人の書を親鸞聖人の第一夫人・恵信尼が刺繍されたものだそうで、本堂には親鸞聖人の像が安置されています。

そんな由緒あるお寺なので、現代においてはアクセスは良くないけど堂宇も立派だし山門から本堂までの距離も境内が広がったことを感じさせる。

書院の前に広がるのが池泉回遊式庭園“裏見なしの庭”。これは回遊式庭園として「どの方向から見ても美しい」ということで名付けられた説と――『一度は親鸞の命を狙った弁円が、結果的に親鸞に帰依した』ことから“恨み無し”と言われたという説も。桂離宮を模した――と言われてもピンと来ないけど、『天龍寺に影響を受けた』のは分からないでもない。ミニ曹源池庭園。

茨城県の江戸時代以前の庭園と言えはなんと言っても『偕楽園』。水戸徳川家も存在感はあったはずだし、神社仏閣で言えば笠間稲荷や鹿島神宮、香取神宮などがあるけれど、古いお寺の庭園って情報がないんですよね…。

その中でここは貴重な存在であり、天龍寺や桂離宮に影響を受けた――と評される＝京の庭園文化が入ってきていたという話は興味深い。他にも茨城の寺院の古庭園が無いか、今後も調べて訪れたい。

アクセス

JR常磐線 羽鳥駅より路線バス「板敷山前」バス停下車 徒歩6分

最寄駅はJR水戸線 福原駅。約6km

〒315-0101 茨城県石岡市大増3220



春風萬里莊庭園 魯山人の“龍安寺”石庭を模した枯山水庭園 水戸線笠間

<https://oniwa.garden/shunpu-banrison-%e6%98%a5%e9%a2%a8%e8%90%ac%e9%a2%a8%e8%8d%98/>

<http://www.nichido-museum.or.jp/shunpu/>

<https://www.ibarakiguide.jp/db-kanko/shunpubanrison.html>

http://www.kasama-kankou.jp/upsys_pro/index.php?mode=detail&code=508

かつて北大路魯山人が暮らした古民家と魯山人作の茶室から眺められる、“龍安寺”の石庭を模した枯山水庭園

「春風萬里莊」（しゅんぷうばんりそう）はかつて北大路魯山人が自らの居宅としてた古民家で、1965年（昭和40年）に笠間日動美術館の分館として北鎌倉からこの地へ移築されました。この茅葺の母屋の前には地形を活かした回遊式庭園、母屋裏に京都『龍安寺』の石庭を模したという枯山水庭園があります。

2019年夏に9年ぶりに笠間の町へ行きました！笠間と言えば伏見稲荷・豊川稲荷と並んで“日本三大稲荷”と称される笠間稲荷神社と陶芸の町。前回初めて訪れた時は“Sense of Wonder”という野外フェスが目的だったんだけど——会場だった笠間芸術の森公園も野外彫刻展示が沢山あったのが印象的で、ちょうど美術館に足繁く通い始めた頃だったので茨城県陶芸美術館や笠間日動美術館に行ったことも覚えている。

けど笠間日動美術館の分館としてこのような施設があることは知らず（まあ知ったとしても当時はまだ“枯山水”という言葉は知らなかったけど…）。昨年ぐらいに教えてもらって、いつ行こうかな～と思っていたのですが、2019年夏の18きっぷシーズンの間に行こう！と決めて行ってきました。

春風萬里荘の母屋はもともとは神奈川県厚木あたりの大庄屋だった伊東家の居宅として江戸時代中期に建造されたもの。昭和の初期に魯山人が譲り受けて北鎌倉に移築、自らの住居としました。

また現在その母屋から繋がっている茶室「夢境庵」は千宗旦によって作られた茶室「又隠」を手本として魯山人が自ら設計したもので、北鎌倉に在った頃は独立した建造物だったそうです。その茶室の内部や母屋の意匠、そして洋間など建物内も魯山人がこだわったんだろうなあ、と思うポイントが沢山で見ててワクワクする（魯山人の遺作の陶芸も展示！）。

そもそもこの地に魯山人の古民家が移築されるにあたった経緯について。魯山人が亡き後の1964年、洋画家・朝井閑右衛門と小説家・田村泰次郎が笠間日動美術館および銀座の日動画廊の創業者・長谷川仁と笠間に訪れた際に、笠間にアトリエを作りたいという作家の要望により“芸術の村”構想ができました。

そして母屋を始め江戸期の長屋門などがこの地に移築され（今回訪れた際には長屋門前の園路は整備工事中でした）、現在もこの春風萬里荘周辺には40戸ほどのアーティストのアトリエがあるそう。春風萬里荘もパンフレットに記載されている住所には「芸術の村」というワードが入っています。

庭園はこの建物が移築された時に作庭されたものなので、元々魯山人宅にあったものというわけではないそうですが——お手入れが行き届いている枯山水庭園。『龍安寺』を模した、と先にも書いたけど、京都の『妙蓮寺庭園』と似た雰囲気を感じます。背後の樹木との組合せも美しい。

母屋の前の自然の地形と山からの小さな河川を活かした自然豊かな庭園は創作活動の間のリフレッシュの場にはピッタリって感じ。低地部にある池泉は初夏～夏にかけてはハナシヨウブや睡蓮の花が咲きほこるそう（訪れた時期にはもう花は見られなかったけど…）。池の畔の桜も春には美しいんだろうなあ。

なお魯山人設計の茶室はお茶会などで借りることもできるそう。これってけっこう貴重じゃない？詳しくは公式サイトで。

03 古河市・筑西市の庭園 (2件)

鷹見泉石記念館 土井利勝の武家屋敷の庭園 古河

<https://oniwa.garden/takami-senseki-museum/>

<https://www.city.ibaraki-koga.lg.jp/soshiki/rekihaku/kinenkan.html>

https://www.kogakanko.jp/spot/tour/takamisenseki_mem_hall

<https://www.ibarakiguide.jp/db-kanko/post-154529.html>

古河城主/大老・土井利勝が建立した武家屋敷と、古河城二之丸御殿から移された灯籠のある庭園。画家・奥原晴湖の旧宅も

「鷹見泉石記念館」（たかみせんせききねんかん）は古河藩家老で蘭学者だった鷹見泉石の過ごした江戸時代の武家屋敷。道を挟んでお向かいにある『古河歴史博物館』の別館で、近代の女流画家・奥原晴湖の旧宅（画室）『繡水草堂』を併設します。

2021年10月に2年ぶり、コロナ以降では初めて北関東の地を訪れました。栃木でも埼玉でもなく茨城県の古河を訪れるのは約6年ぶり。その時は『古河総合公園』にあるSANAAの建築が目当てで、古河で庭園を見ろという頭じゃなかったんだけど…「城下町だから古い屋敷や庭園があったのかもな」と後から思って、今回の再訪に至りました。

室町幕府を開いた足利家や北関東に影響力をほこった古河公方（足利家）の拠点として早くから城館が築かれた古河の城下町。

江戸時代になると日光御成道（日光街道）の宿場町として交通の要衝となり、徳川家に近い大名・松平家、小笠原家、永井家（老中・永井尚政など）、土肥家（大老・土井利勝など）、堀田家（老中・堀田正俊など）、本多家（本多忠勝の宗家）が歴代の城主をつとめました。

■ 鷹見泉石記念館

現在の「鷹見泉石記念館」の建築は1633年（寛永10年）土井利勝が古河城の御三階櫓を造営した際に余った材で建立されたと伝わり、鷹見家のみならず歴代の家老がこの屋敷に入りました。

江戸時代末期、土井家11代目・土井利位に仕えた鷹見泉石がこの屋敷に入って以降、（一時空き家にしたもの）近代～現代まで鷹見家の所有で残され、古河市により解体・修復された後に1990年（平成2年）に記念館として開館。

建造物は文化財になっていないけど、庭園に残された“楓樹”が古河市天然記念物、そして鷹見家から寄贈され、古河歴史博物館で保存・公開されている1万点以上の『鷹見泉石関係資料』のうち約3,000点が国指定重要文化財。

家老屋敷だった時代から現存するのは半分程度（敷地は元の1/4程度）だそうで、庭園もおそらく縮小されている（屋敷南側の庭の飛び石が隣のお宅の敷地に続いていて、もしかしたらその先は現在も鷹見家なのかも）のだけど、屋敷西部の手水鉢や灯籠の残る庭は特に古い面影を残します。『古河城二之丸御殿』にあったと伝わる灯籠「濡鷺」も。

■ 奥原晴湖画室“繡水草堂”

鷹見泉石記念館に隣接するのが、古河出身で近代に活躍した女流南画家・奥原晴湖が埼玉県熊谷市に建立した画室“繡水草堂”。

氏の没後に古河市内の生家に移築、そして2008年（平成20年）に古河市に寄贈され再移築&熊谷時代の邸宅を図面を元に復元されたもの。こちらに庭園にも古河城の礎石が再利用されているそう。

道を挟んで向かいの古河歴史博物館の外構（資料によっては“庭園”とされてる）も石の彫刻が和泉正敏さんみたいなテイストだったり、現代日本庭園みがあってカッコいい。

博物館及び周囲の景観は建築家・吉田桂二の設計によるもので、1992年の日本建築学会賞（作品賞）、1996年の公共建築賞（建設大臣表彰・文化施設部門）を受賞。SANAA目当ての建築ファンにあわせてチェックして欲しい！

アクセス

JR宇都宮線 古河駅より徒歩15分弱

〒306-0033 茨城県古河市中央町3丁目11-2



廣澤美術館 “つくは野の庭” 東の足立美術館の異名を持つ現代日本庭園 水戸線下館

<https://oniwa.garden/hirosawa-art-museum-%e5%bb%a3%e6%be%a4%e7%be%8e%e8%a1%93%e9%a4%a8/>

<https://www.shimodate.jp/>

“東の足立美術館”へ。2021年に開館した隈研吾の美術館×造園家・宮城俊作、齋藤忠一が作庭の現代日本庭園

「廣澤美術館」（ひろさわびじゅつかん）は2021年1月に茨城県の西部・筑西市の郊外に開館した私設美術館。その建築を世界的建築家・隈研吾が手がけるほか、敷地大部分を占める本格的日本庭園は現代の作庭家・齋藤忠一と宮城俊作（プレイスメディア）が手がけています。

2021年10月に2年ぶり、コロナ以降では初めて北関東の地を訪れました。その中で最も行きたかった場所の一つがこちら。今年の初めにCasa BRUTUSの投稿で知って、こんな場所が出来たの！？と思って…。

隈研吾さんについては言わずもがな、宮城俊作・プレイスメディアは京都の『新風館・エースホテル』など他の隈建築でもタグを組んでいるのだけど、そこに齋藤忠一さんが名を連ねたことに驚いた。

かの重森三玲に師事した作庭家、これまで徳島県の『本楽寺庭園』は当サイトでも絶賛しているけれど、今回は更にそれよりもスケールが大きな庭園。この美術館のキャッチコピー『石が主役の美術館』は齋藤忠一さんが果たしている役割が大きいのではと思う。

まずこの美術館のある『ザ・ヒロサワ・シティ』について。水戸線・下館駅から約5kmの場所にある、自然・健康・文化をテーマにした“総合レジャー施設”。

大部分を占めるのはゴルフ場ですが、近年は美術館の他にもMTBや四駆のオフロードコース、クラシックカーミュージアム、新幹線の車両などもあるレールパーク、航空博物館、農園、ロッジなどなど…まさに総合テーマパーク。その関係で美術館の前にもクラシックカーがある（笑）

アート系だけでも、美術館から道を挟んでアート・カフェ、分館、アトリエ、『石の美術館』などがあり、廣澤美術館の範囲だけでも2時間ぐらいいは平気で居られそうな感じ。

美術館としては横山大観や地元出身の日本画家・板谷波山などの日本画、レオナール・フジタやジョルジュ・ルオー、ベルナール・ビュッフェ、梅原龍三郎などの洋画家の作品を所蔵、展示しています。

空中から見て手裏剣のようなデルタ型をした美術館を囲んで、前庭“寂（しじま）の庭”、芝生と彫刻作品が主体の“炎（ほむら）の庭”（以上2つが宮城俊作作庭）、そして主庭“浄

（きよら）の庭”（斎藤忠一作庭）と3つの庭園があり、その全体を“つくは野の庭”と称します。命名は国文学者・中西進。

木材を主体的に見せる隈建築はこれまでも“ランドスケープ”との相性は良いと思っていた（から好きだ）けど、今回ほど石組含めた大規模な日本庭園とのタッグは国内では初めてかなーって印象がある（海外では『ポートランド日本庭園』があるし、石の建築としては同じく最近オープンした『角川武蔵野ミュージアム』があるけど）。

隈研吾の建築を“消す”ように積み上げられた庭石たち、これはオーナーの広沢グループ（茨城県内の有力企業）・広沢清会長が長年にわたり全国各地から集めたもので、その総数は1500個、約6000トン！

筑波平野という立地で、起伏がない中で建築そのものを斜面として庭園の石組を見せているというのが秀逸。美術館・隈建築自体が庭園の一部のパーツという風になっている（と庭園目線で見ると思う）。

師・重森三玲の庭園のような大きな砂紋の描かれた“浄の庭”の石庭空間と美術館の間にある直線的な水盤の意匠も現代的で良い。この日は残念ながら薄曇りだったので空や風景のリフレクションは味わえなかったけど、晴れていたら青空や庭園のリフレクションが味わえるんじゃないかなあ…。

陰しさを感じる石庭と、水鏡を経て美術館のテラスにはソファ席があって。現世と来世みたいな。（*実際は石庭の中においてその世界が表現されている）

尚、作庭家の方々のみならず、美術館正門の左官は国指定名勝『江馬氏館跡庭園（史跡江馬氏館跡公園）』の時に名を挙げた左官工・挾土秀平さん。エレファントカシマシ・宮本浩次さんとの対談も記憶に新しい。

数多くの名クリエイターが関わっている新美術館——まだ出来たばかりなので“名庭園”という言葉は使えないけれど、なかなか大規模な日本庭園は生まれづらい時代。“東の足立美術館”となる期待を込めて。

なお週末は駅から美術館前までコミュニティバスが出ています。Googleマップではその時刻表が反映されていないので「公共交通機関ないのかな…」と思って、自分は駅前でレンタサイクル（シェアサイクル「HELLO CYCLING」）をしたけれど。平坦なので自転車も便利ですよ。

アクセス

JR水戸線 下館駅より約4.5km（駅前にレンタサイクルあり）

下館駅より筑西市コミュニティバス「廣澤美術館」バス停下車すぐ（土休日のみ）

〒308-0813 茨城県筑西市大塚599-1



04 常陸太田市の庭園 (1件)

西山御殿跡（西山荘） 水戸黄門隠居後の御殿にある池泉廻遊式庭園 水郡線常陸太田

<https://oniwa.garden/seizanso-garden-%e8%a5%bf%e5%b1%b1%e5%be%a1%e6%ae%bf%e8%b7%a1%ef%bc%88%e8%a5%bf%e5%b1%b1%e8%8d%98%ef%bc%89/>

<http://www.tokugawa.gr.jp/seizanso/>

水戸黄門こと徳川光圀公が隠居後に移り住んだ御殿と、岩城亘太郎作庭の池泉回遊式庭園。
国指定名勝

国指定名勝。「西山荘」（せいざんそう）は江戸時代中期、水戸藩主・徳川光圀公（水戸黄門）が隠居した後に造営し移り住んだ御殿。

前庭は昭和年代に岩城亘太郎により新たに造られた池泉回遊式庭園。

アクセス

JR水郡線 常陸太田駅より約3km（駅の観光案内所にレンタサイクルあり→こちら）

常陸太田駅より路線バス「西山荘入口」バス停下車 徒歩10分（平日は1日5本、土休日は1日2本のみなので注意）

05 北茨城市の庭園 (1件)

岡倉天心旧宅・庭園及び大五浦・小五浦（六角堂） 天心旧宅庭園 常磐線大津港

<https://oniwa.garden/%e5%b2%a1%e5%80%89%e5%a4%a9%e5%bf%83%e6%97%a7%e5%ae%85%e5%ba%ad%e5%9c%92%e5%8f%8a%e3%81%b3%e5%a4%a7%e4%ba%94%e6%b5%a6%e3%83%bb%e5%b0%8f%e4%ba%94%e6%b5%a6%ef%bc%88%e5%85%ad%e8%a7%92%e5%a0%82%ef%bc%89/>

<http://rokkakudo.izura.ibaraki.ac.jp/>

明治時代に岡倉天心が設計した「六角堂」を含む天心の旧宅跡と庭園。国登録記念物（名勝地）。

岡倉天心は明治時代に日本の美術・芸術に多大な貢献を果たしている人物（詳しくはWikipedia等をご覧ください）。その旧宅のあった一帯が「岡倉天心旧宅・庭園及び大五浦・小五浦」という名で国登録記念物（名勝地関係）。

中でも六角堂が有名で、現在は茨城大学の美術文化研究所として有料施設になっています。なお六角堂のビューポイントはここから徒歩10分程の五浦岬公園にあります。岡倉天心の名を冠した「天心記念五浦美術館」も海岸に沿って徒歩10分ほど。

アクセス

JR常磐線 大津港駅より約3km（徒歩40分、タクシーで1,000円強）

【火・木・金のみ運行！】大津港駅より北茨城コミュニティバス「六角堂入口」バス停下車 徒歩3分

近隣

茨城大学五浦美術文化研究所岡倉天心旧居（研究室）

<http://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/116437>



© copyright N. Imai All rights reserved